

Jミルクが2022年1月28日に公表した「需給見通し(※2021年12月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《家庭内消費は依然低調～需要拡大が目下の課題～》

・3月の需給実績について、生乳生産は都府県が2月に続いて伸び率が鈍化する一方で、北海道は依然として堅調な推移となり、全国では前年を上回って推移した(2021年度は前年差+212千ト、前年比102.9%で着地)。飲用等向けは前年比99.8%とやや減少し、乳製品向けは105.8%と前年を上回って推移した。この結果、脱脂粉乳・バター等向けの生産量が増加したものの、推定出回り量が相当量あったため、月末在庫量は2月末よりも減少した。在庫量はJミルク予測と比較しても減少した。

・4月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比95.9%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):98.3%)については、4月の気温が例年よりも高い日が続いたことや統計が高めに出る傾向を踏まえても予測値前後で推移している可能性も十分考えられる。直近(5/2週)の牛乳類の販売個数は、92.6%と前年を大きく下回り、4/18週から3週連続で95%を下回る低調な水準となっている。店舗業態別に見るとドラッグストアチェーンの販売個数シェアが増加しており、消費者の購買行動の変化を注視する必要がある。5/2週のヨーグルト類については全品目通じて前年を大きく下回っており、22年度に入ってから週を追うごとに減少する傾向となっている。

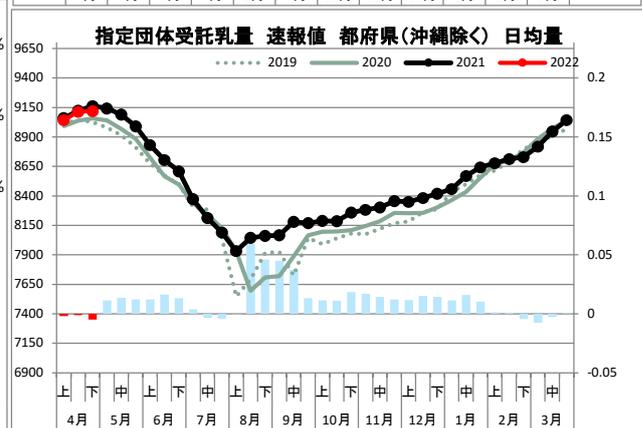
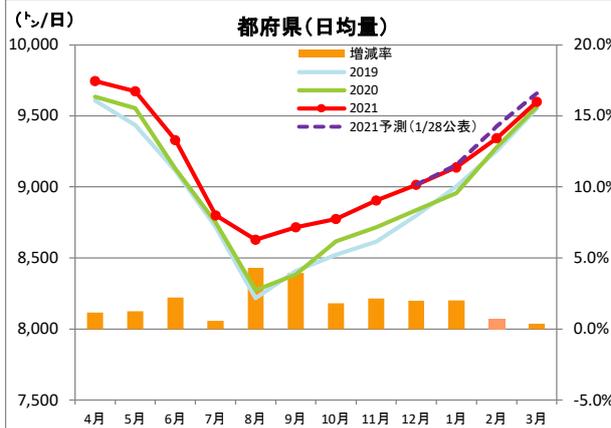
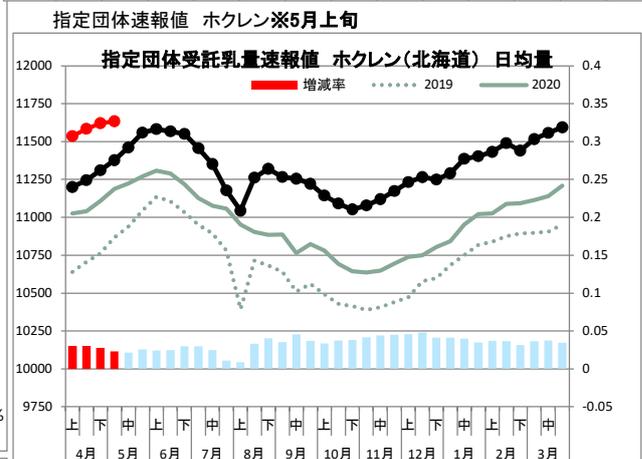
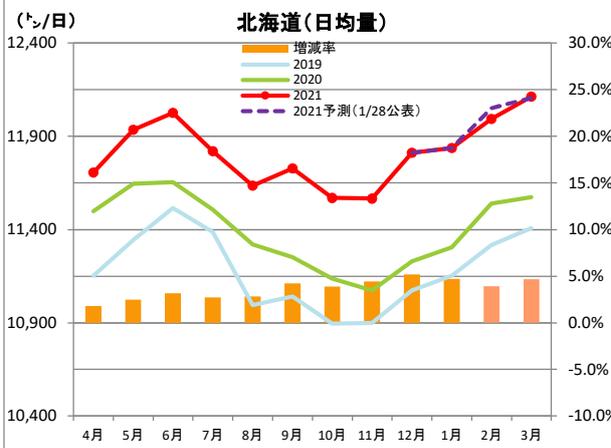
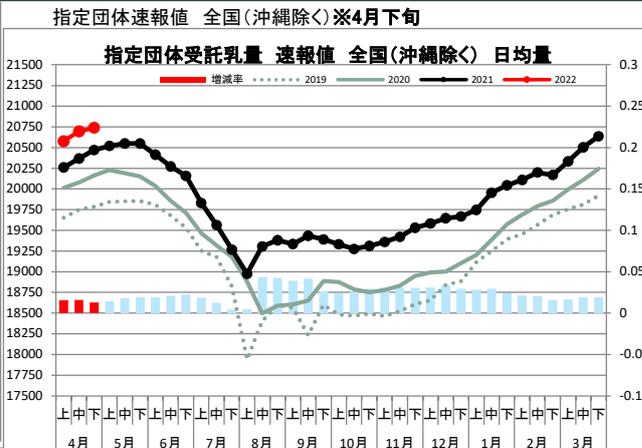
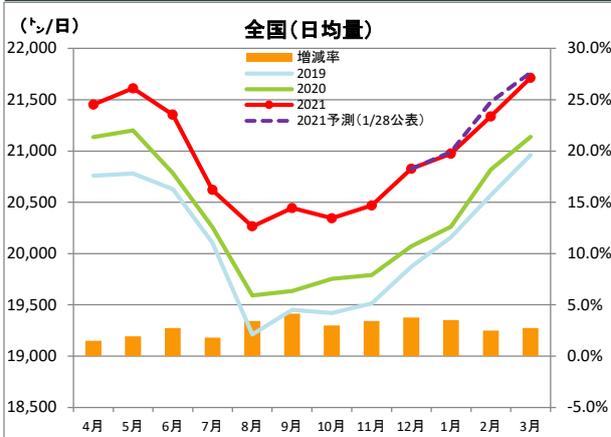
・厳しい需給環境が危惧されていたGWIについては、大きな問題が発生したとの情報は入っていないが、北海道で生乳生産量のピークを迎える5月末に向けて予断を許さない状況が続くため、これまで実施してきた生産者における生産抑制対策や乳業者による乳製品処理の最大化等に引き続き取り組む必要があるとともに、ウクライナ侵攻、円安、資材やエネルギー資源の価格高騰等による生活必需品や電気料金、燃料の値上げが重なっている中、国産牛乳乳製品の需要拡大は喫緊の課題であることから、業界一体となった積極的かつ継続的な消費拡大運動が重要となる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳生産量は、全国673千ト(前年同月比102.7%)、北海道376千ト(同104.7%)、都府県298千ト(同100.4%)。

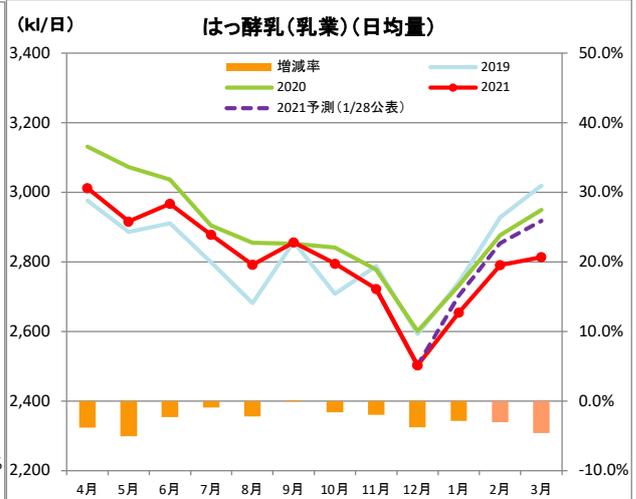
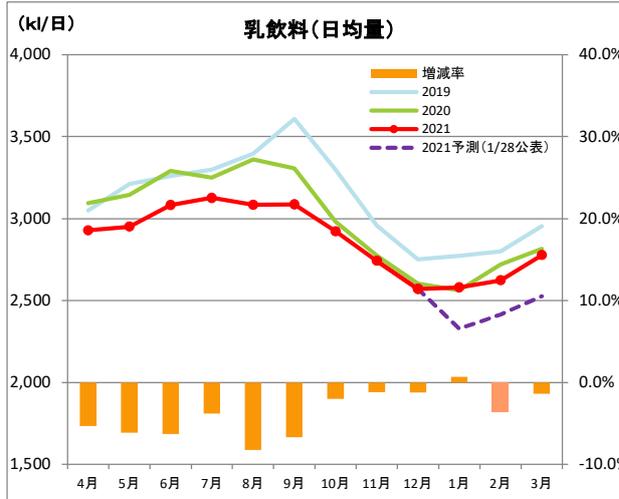
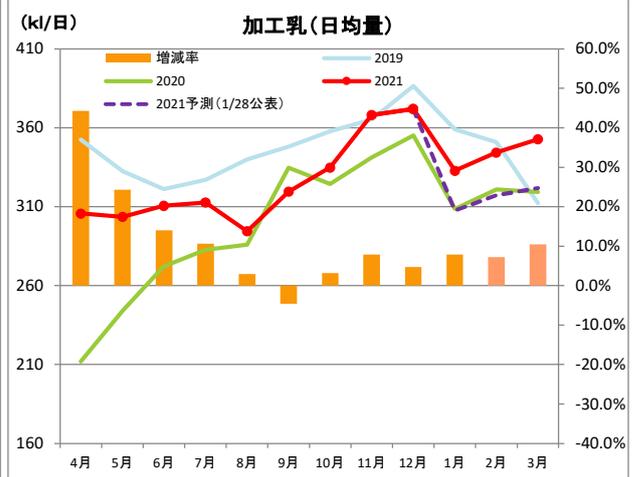
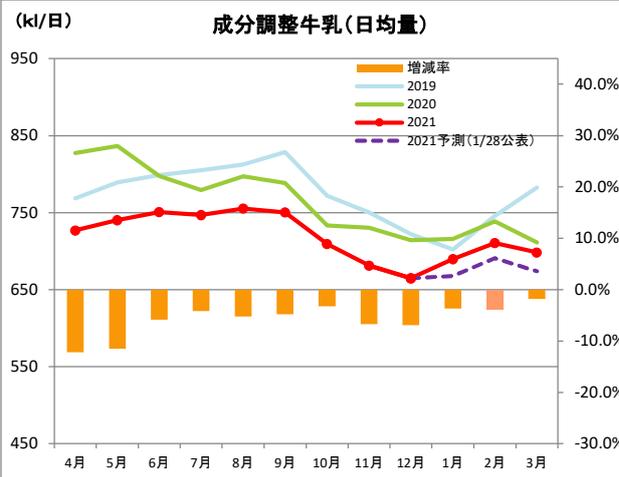
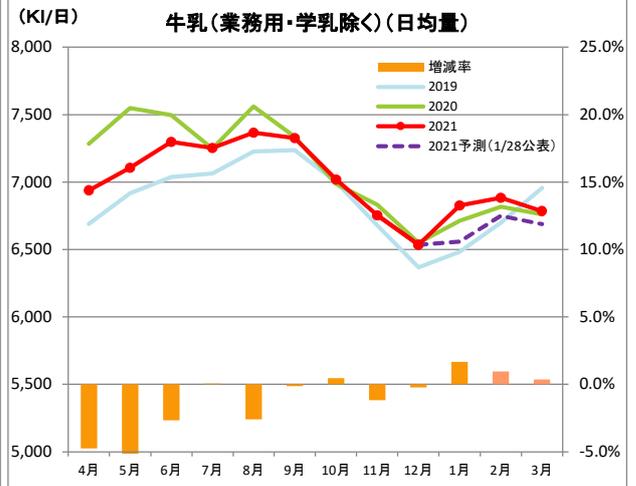
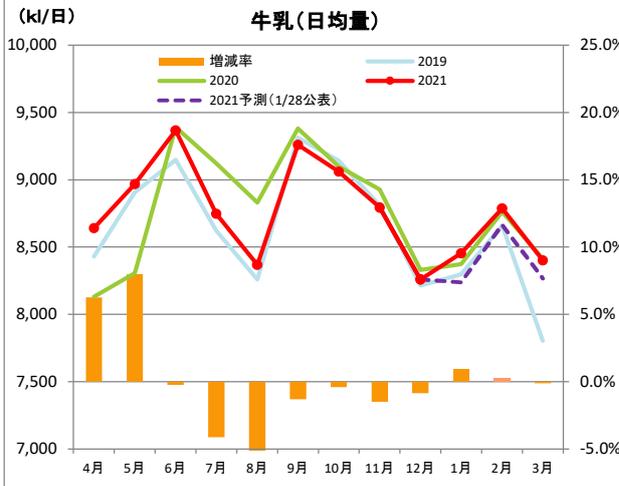
(2)Jミルク予測値(全国675千ト、北海道375千ト、都府県299千ト)との比較では北海道はやや上振れ、都府県は下振れ、全国は下振れとなった。

(3)直近の指定団体速報値は4月下旬で全国が同101.3%、北海道が同102.7%、都府県(沖縄除く)が同99.5%となった。また北海道の5月上旬の速報値は102.3%となっている。



【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1) 3月の牛乳等生産量は、牛乳260千kl(前年同月比99.9%)、成分調整牛乳22千kl(同98.2%)、加工乳11千kl(同110.5%)、乳飲料86千kl(同98.6%)となり、牛乳類合計では379千kl(同99.8%)となった。
- (2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同101.0%、「業務用」は同102.7%、「学乳」は同88.5%。
- (3) はっ酵乳(乳業)は87千kl(同95.4%)と前年を下回って推移している。
また、非乳業実績(2月)についても、同99.7%と前年を下回っている。

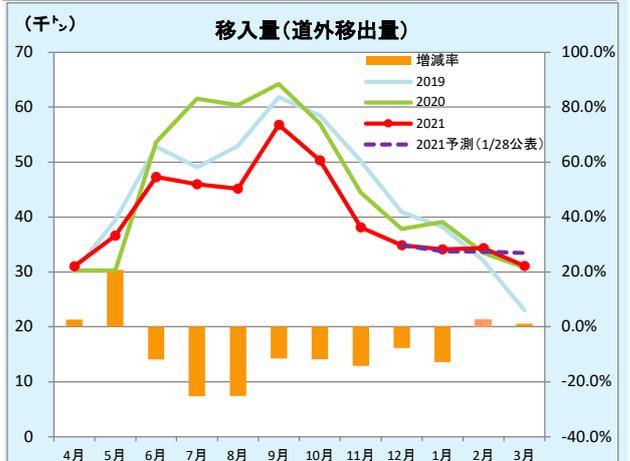
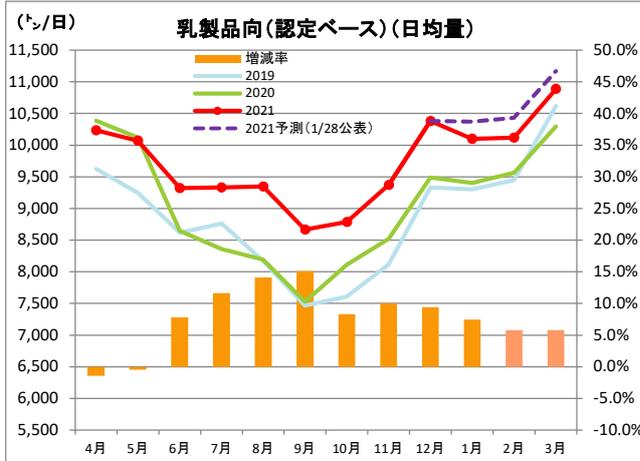
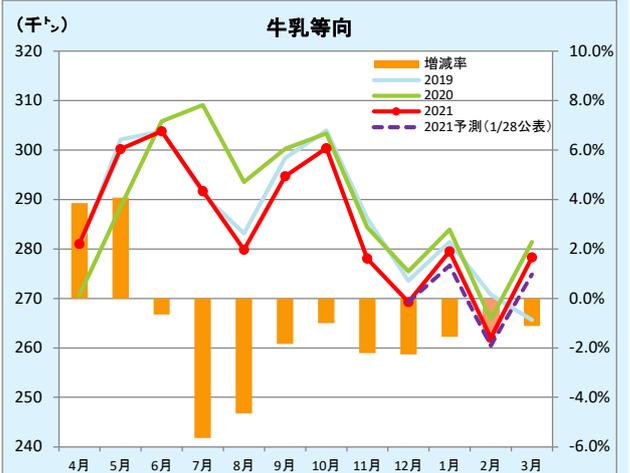
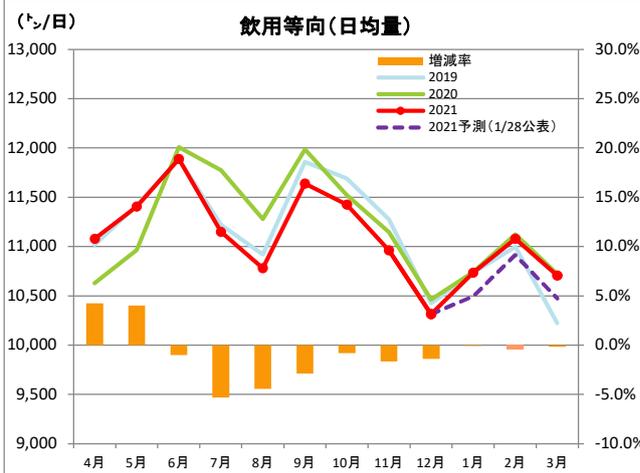
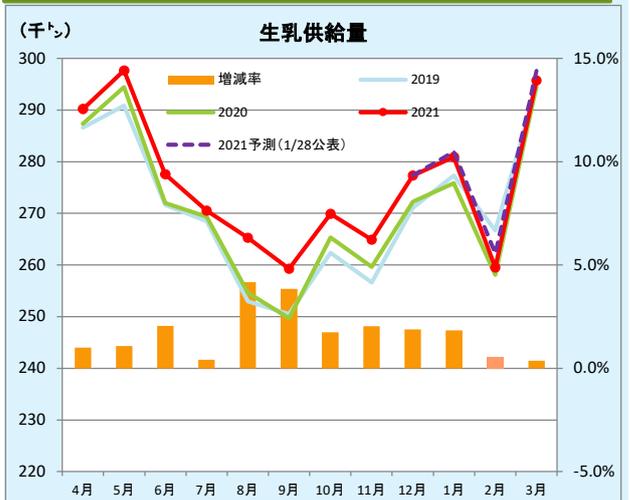
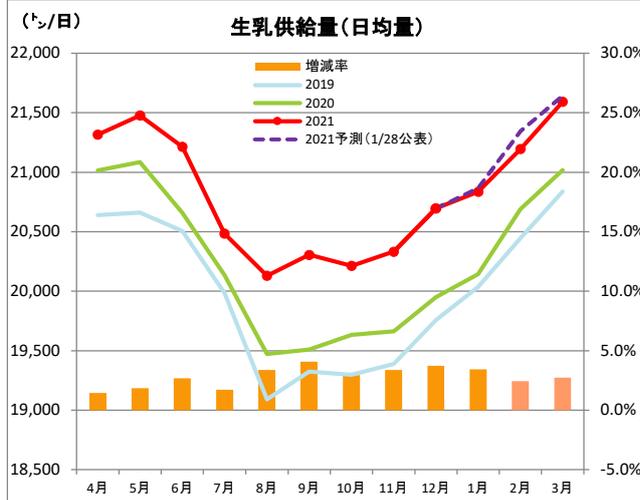


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳供給量は669千ト(前年同月比102.7%)、飲用等向332千ト(同99.8%)、乳製品向(認定ベース)337千ト(同105.8%)。
 (2)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:671千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:325千ト)は上振れし、結果乳製品向(予測値:346千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

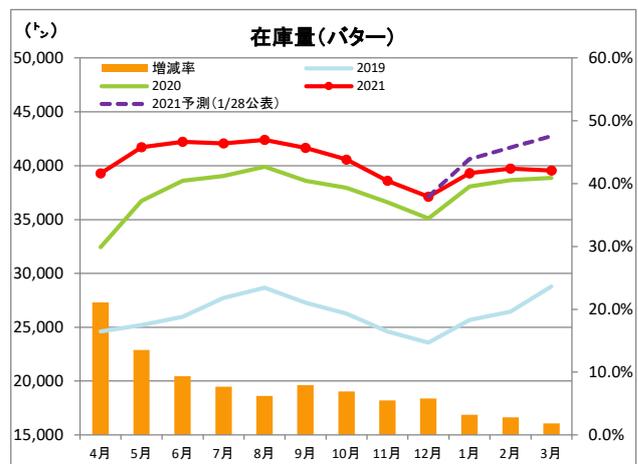
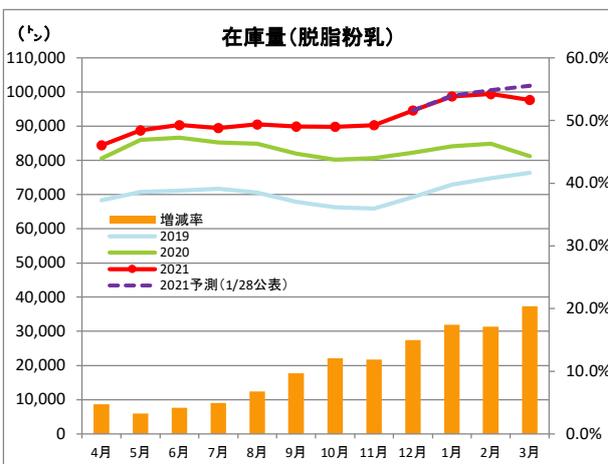
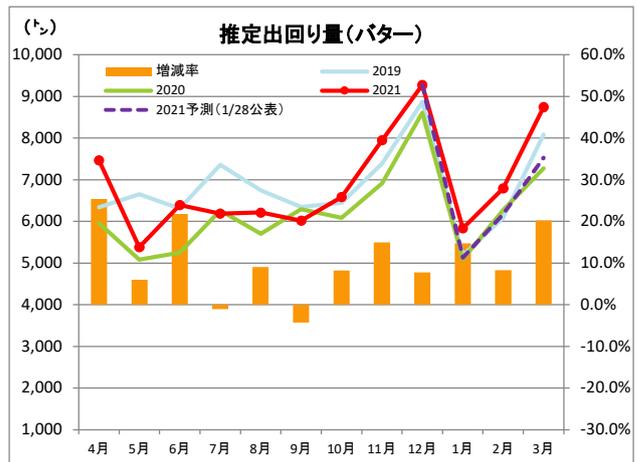
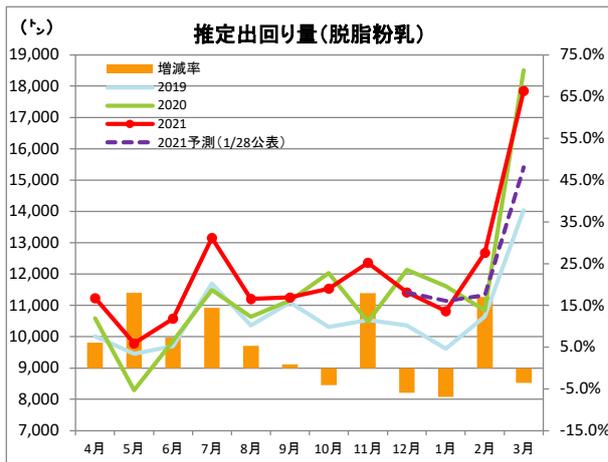
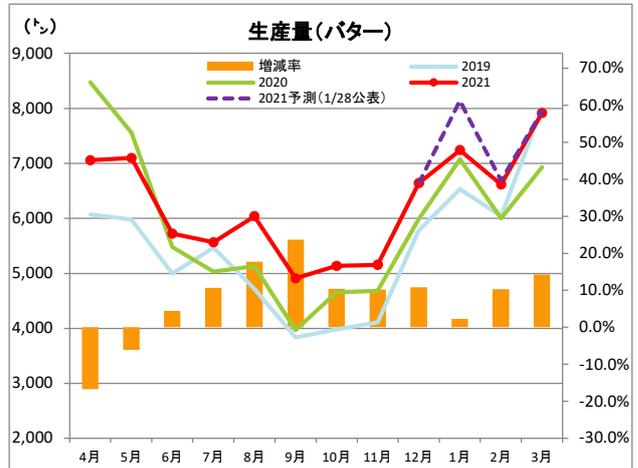
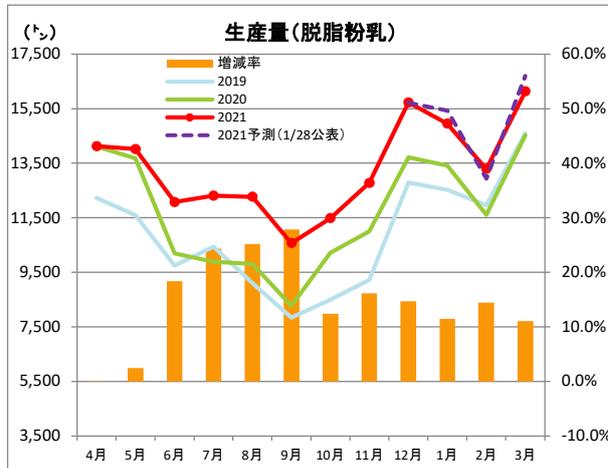
(1)3月は、生乳供給量296千ト(前年同月比100.4%)、牛乳等向278千ト(同98.9%)。
 (2)北海道からの移入量について、31.1千ト(同101.1%)と先月に引き続き前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:298千ト)はやや上振れ、牛乳等向(予測値:275千ト)はやや上振れ、北海道からの移入量は(予測値:33.5千ト)はやや下振れとなった。



【脱脂粉乳・バター需給】

(1) 脱脂粉乳は、3月の生産量は16.1千^ト(前年同月比114.3%)、推定出回り量は17.8千^ト(同96.4%)、その結果、在庫量は97.7千^ト(同120.3%)。3月は生産量よりも推定出回り量が上回ったことから、在庫は先月よりも減少した。
 なお、予測値との比較では在庫量(予測値:101.9千^ト)はやや下振れしている。

(2) バターは、3月の生産量は7.9千^ト(同110.4%)、推定出回り量は8.7千^ト(同120.3%)、その結果、在庫量は39.6千^ト(同101.8%)。
 予測値よりも推定出回り量が上振れしており、在庫量(予測値:40.9千^ト)は下振れしている。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)4月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.0%、成分調整牛乳:同97.2%、加工乳:同99.1%、乳飲料:同94.3%。
牛乳類では同95.9%

【参考】2020年度比…牛乳:86.4%、成分調整牛乳:84.6%、加工乳:89.2%、乳飲料:80.3%(牛乳類トータル:85.4%)

・販売単価は、牛乳:189.9円、成分調整牛乳:173.3円、加工乳:190.9円、乳飲料:150.0円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(5/2週)の販売個数は、牛乳:前年同期比92.3%、成分調整牛乳:同95.4%、加工乳:同97.5%、乳飲料:同92.3%。
牛乳類トータルでは同92.6%

【参考】2020年度比…牛乳:82.1%、成分調整牛乳:80.8%、加工乳:84.0%、乳飲料:76.3%(牛乳類トータル:81.2%)

・販売単価は、牛乳:190.0円、成分調整牛乳:173.9円、加工乳:190.5円、乳飲料:150.5円。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

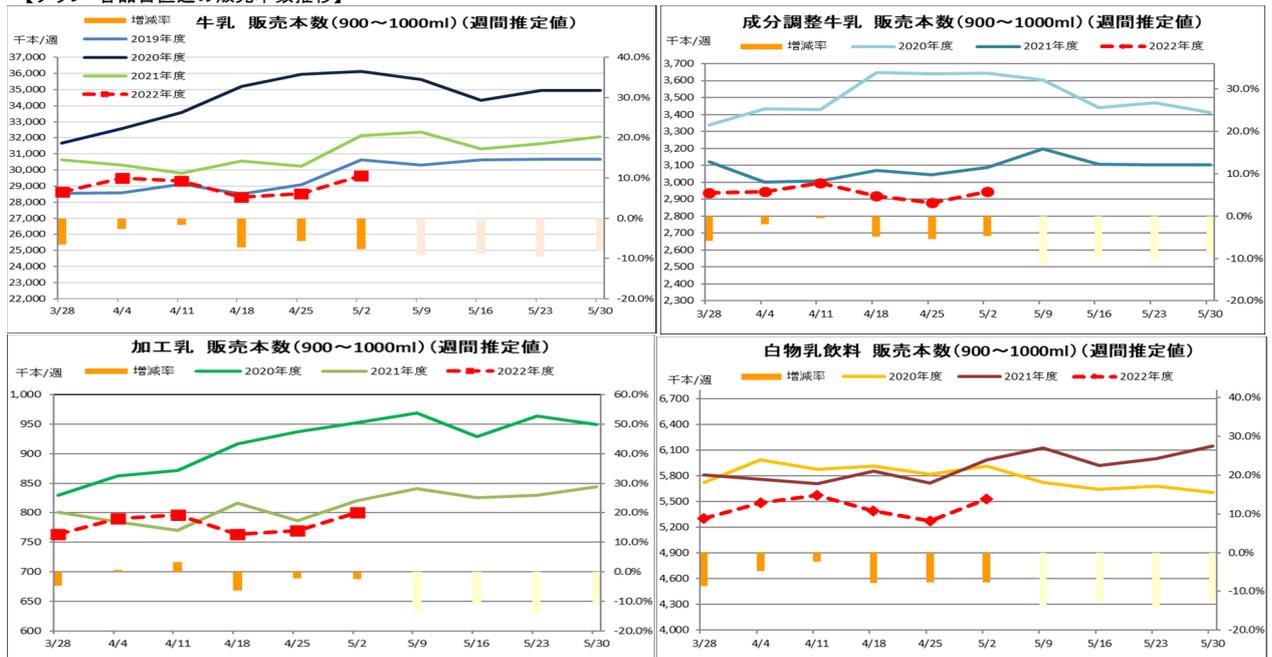
単位:千個、円

品目	区分	2021/12-	2022/1-	2022/2-	2022/3-	2022/4-
		販売個数	164,941	162,926	151,428	164,151
トータル	販売個数前年比	94.8	95.2	96.1	95.2	95.9
	販売単価	183.0	183.7	182.7	182.7	182.9
牛乳	販売個数	126,006	124,657	115,514	124,883	124,418
	販売個数前年比	95.7	96.1	97.1	95.4	96.0
成分調整牛乳	販売個数	189.7	190.5	189.4	189.5	189.9
	販売個数前年比	92.8	95.0	96.1	95.7	97.2
加工乳	販売個数	172.8	173.6	173.4	173.6	173.3
	販売個数前年比	100.1	98.0	99.3	98.3	99.1
乳飲料	販売個数	3,301	3,211	3,023	3,334	3,355
	販売個数前年比	100.1	98.0	99.3	98.3	99.1
牛乳	販売個数	191.1	191.2	190.6	190.4	190.9
	販売個数前年比	23,125	22,821	21,293	23,339	23,365
成分調整牛乳	販売個数	90.6	90.4	90.6	93.3	94.3
	販売個数前年比	150.9	150.5	150.3	150.1	150.0

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-	4.18-	4.25-	5.2-
		販売個数	37,065	37,487	37,641	38,712	38,688	37,403	37,448
トータル	販売個数前年比	95.9	94.8	93.2	97.1	98.5	92.8	94.1	92.6
	販売単価	182.7	182.7	182.7	182.9	182.9	182.9	183.1	183.2
牛乳	販売個数	28,242	28,619	28,639	29,492	29,325	28,330	28,523	29,657
	販売個数前年比	96.5	94.8	93.5	97.3	98.4	92.7	94.3	92.3
成分調整牛乳	販売個数	189.4	189.3	189.6	189.7	189.9	189.9	190.0	190.0
	販売個数前年比	2,821	2,837	2,938	2,945	2,996	2,919	2,880	2,945
加工乳	販売個数	96.0	95.1	94.2	98.1	99.6	95.1	94.6	95.4
	販売個数前年比	173.2	173.9	172.4	173.8	173.4	173.4	173.2	173.9
乳飲料	販売個数	755	754	764	790	796	764	770	800
	販売個数前年比	100.1	96.8	95.3	100.6	103.4	93.5	97.9	97.5
牛乳	販売個数	190.6	191.4	190.1	191.0	190.9	191.1	190.1	190.5
	販売個数前年比	5,248	5,277	5,300	5,485	5,571	5,391	5,274	5,526
成分調整牛乳	販売個数	92.5	94.2	91.3	95.2	97.7	92.1	92.3	92.3
	販売個数前年比	150.3	150.2	150.2	150.0	149.9	149.7	150.2	150.5

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(5/2週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%未満。

一昨年比ではドリンクタイプは80%未満、個食タイプ90%未満、大容量90%未満となっている。

(2)販売個数については週を追うごとにドリンク、個食は減少傾向、大容量は4/25週よりも5/2週の個数は増加したが前年比では9割を下回った。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

品目	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-	4.18-	4.25-	5.2-
ドリンクタイプ	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
個食タイプ	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
大容量タイプ	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↓

 : 前年比90%未満	 : 前年比105%以上110%未満
 : 前年比90%以上100%未満	 : 前年比110%以上120%未満
 : 前年比100%以上105%未満	 : 前年比120%以上

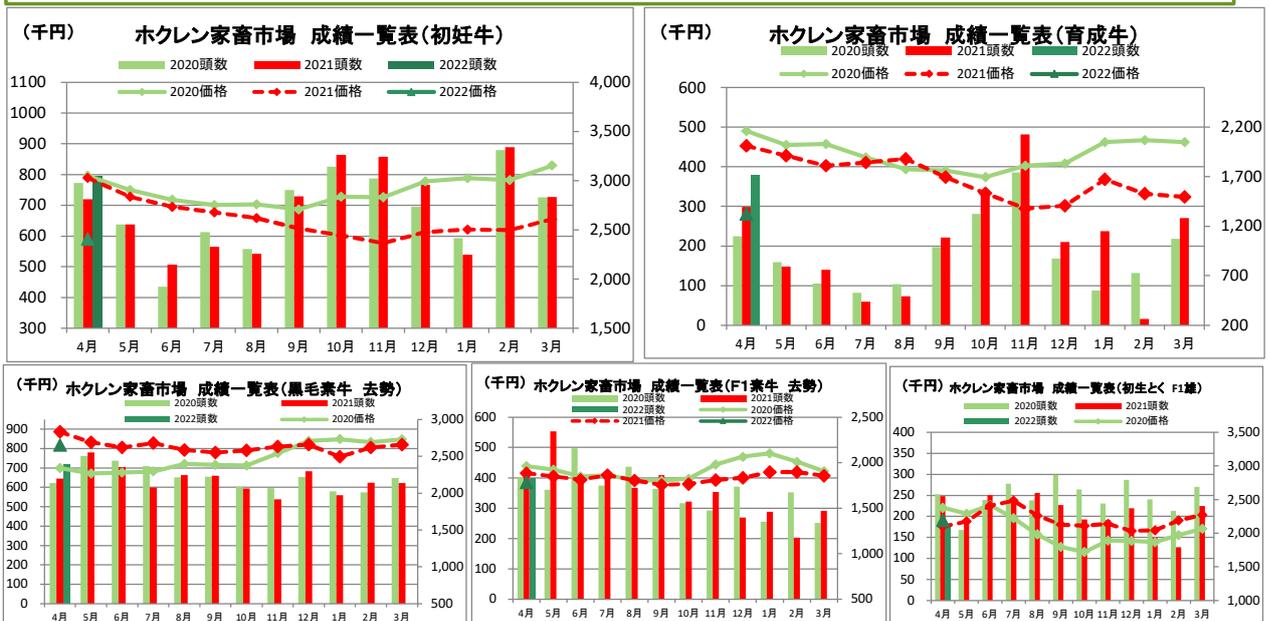
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)4月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は590千円(前年同期比74.8%)、育成牛価格は282千円(同62.3%)、和牛素牛(去勢)価格は817千円(同92.2%)、F1素牛(去勢)価格は386千円(同92.8%)、F1初生(雄)価格は191千円(同108.7%)。

(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同108.3%、育成牛:同123.2%、和牛素牛(去勢):同109.0%、F1素牛(去勢):同96.8%、F1初生(雄):同82.1%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

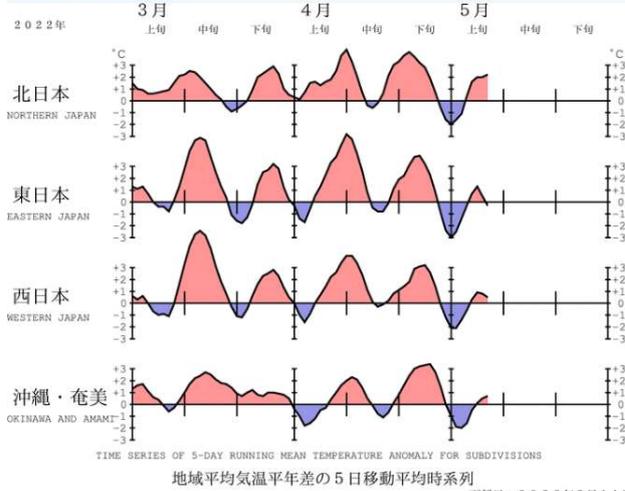


【気温の動向】

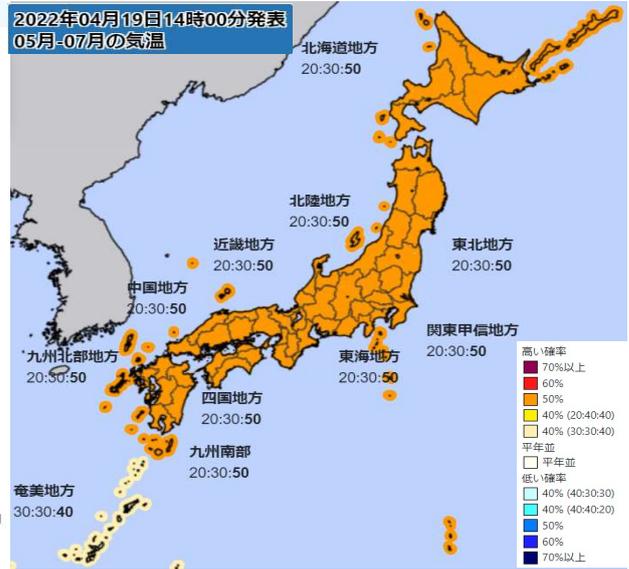
- (1) 全国的に3月、4月ともに平年よりも気温の高い日が多かった。
 - (2) 5-7月の長期予報によると気温は全国的に平年並みとなる確率は30%、高くなる確率は50%以上となっている。
- ※出典: 気象庁

※参考資料

前3か月間の気温経過

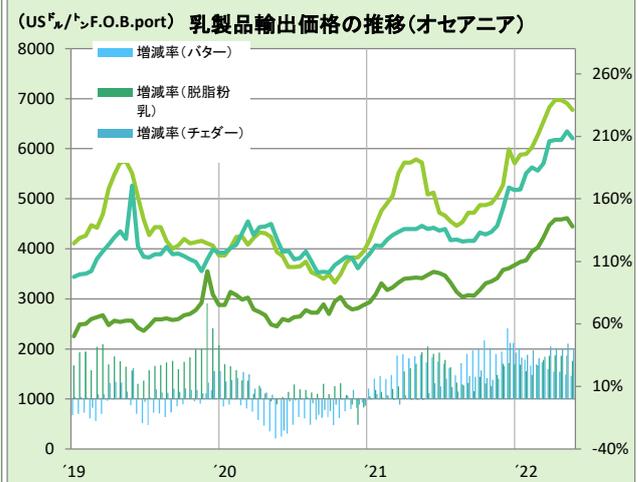
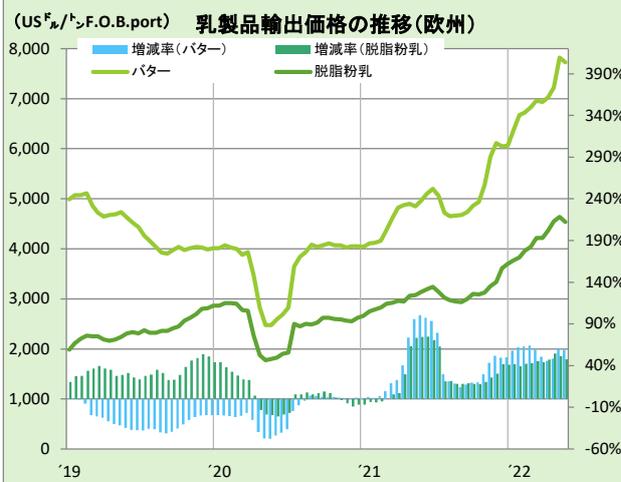


上図では、5日移動平均値（前後各2日を含む5日間の平均値）を平均期間の真ん中の日に表示しています。平年値は1991～2020年の30年間の観測値の平均をもとに算出しています。



【乳製品輸出価格の動向】

- (1) 直近5月上旬の価格は欧州、オセアニアともに脱脂粉乳は4,500ドル/トン程度、バターは欧州7,700ドル/トン程度、オセアニアは6,700ドル/トン程度、オセアニアのCHEDDARチーズは6,200ドル/トンを超える水準となっている。



○Jミルク特設サイト「需給安定に向けてー2022春」

Jミルクでは、今春の生乳需給に関する情報をまとめた特設ページを開設。各団体や企業の取り組み内容や需給関連のQ&A、「給食のない日の牛乳」について学校関係者向けリーフレットなどの情報を提供しています。こうした情報も参照の上、需給安定へのご理解とご協力をお願いします。

<https://www.j-milk.jp/news/supplystable2022spring.html>

※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」